

福祉サービス第三者評価結果報告書（2021 年度）

2022 年 3 月 28 日

社会福祉法人京都市社会福祉協議会  
山階児童館 館長 殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F  
評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団  
(東京都福祉サービス評価第三者評価機関/機構 12-215)  
電話番号 03-3486-5141  
代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名	評価者氏名		所属
	①	渡部 博昭	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1201036
	②	水野かおり	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H2101015
福祉サービス種別	児童館		
評価対象施設名称	山階児童館		
施設連絡先	所在地	〒607-8086 京都府京都市山科区竹鼻四丁目野町 42-3	
	電話番号	075-594-4880	
施設代表者氏名	館長 丸山 修		
契約日	2021 年 1 月 20 日		
自己評価票回答期間	2021 年 5 月 28 日～2021 年 6 月 30 日		館長・事務局回答項目
職員調査票回答期間	2021 年 8 月 17 日～2021 年 8 月 31 日		職員回答項目
訪問調査日	2021 年 9 月 14 日		

## 京都市山階児童館評価結果

## I. リーダーシップと意思決定

1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
1	事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している	
	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している	○
	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○
	3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○
2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	1. 経営層は、自らの役割と責任を表明し、職員に伝えている	○
	2. 経営層は、経営の改善、児童館活動の質の向上などに向けて取り組むべき方向性を提示し、指導力を発揮している	○
【講評】		
法人は基本構想と児童館担当部の事業計画を明示して、実現に向けた取り組みを行っています		
① 法人は「京都市の社協基本構想」を掲げ、住民主体の地域福祉活動の発展と地域共生社会の実現を唱っています。このことを法人のホームページ、広報誌、パンフレット、などの媒体により広く公表し、利用者への周知を図っています。児童館職員に対しては、その理解を深めるための研修を行い、目指す姿の実現のために自館の業務の中で何をするのかについて具体例を挙げながら話し合う機会を持ちました。児童館事業部としての事業計画を定めています。ホームページ等で公表するほか、各児童館の事業計画立案の基礎になっています。		
② 経営層は、業務権限や責任所在に関する「専決規程」を定めて自らの役割と責任の所在を明示しています。		
③ 同じ行政区の法人所管児童館の館長によるグループ制を導入しています。各グループに部長を配置し、グループの統括、グループ館長会をスムーズに行う運用としています。このことにより、法人の意向や必要な事務連絡、各館の情報交換が円滑に行われるようになっています。		

## Ⅱ. 経営における社会的責任

1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		
1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している		○
2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる		○
3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている		○
2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		
1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるよう取り組んでいる		○
2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○
2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした取り組みがある		
1. 利用者と地域との交流を広げるための地域への働きかけを行っている		○
2. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）		○
3. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている		○
2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		
1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○
2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など）		○
3 地域の関係機関との連携を図っている		
1. 事業所として必要な関係機関との連携が、適切に行われている		○
2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○
【講評】		
地域の福祉を担う法人として、児童館も社会的責任を果たす事業に取り組んでいます		
<p>① 職員の心得やサービス姿勢を「信条」に明示しています。「職場倫理マニュアル」の策定、「職場倫理チェックシート」を作成し、各館が活用することで倫理意識の維持・向上に努めています。管理職対象のハラスメント研修、職員全体に「障害者差別解消法」研修を行う等、職員保護や法令遵守の推進を図っています。例えばハラスメント対応については、職員の職種に関わらず、採用時に法人の「ハラスメント防止に関する要綱」を明示して職員に周知しています。</p> <p>② 「事業報告書」「情報公開規程」「第三者評価受審結果」等必要な情報開示を行っています。また、所管児童館共通で実施する「利用者共通アンケート」の結果を「児童館だより」等に掲載し公表しています。</p> <p>③ 法人は地域公益活動を最重要事項の一つとしています。各児童館では、他施設との交流、地域の方々にも参画してもらう「児童館まつり」の開催、児童館運営協力会を組織し実施するなど、地域への働きかけを積極的に行う姿勢です。</p> <p>④ 各館におけるボランティアの積極的な受け入れも進めています。その際の「ボランティアの手引き」もひな形を示しています。倫理面、個人情報保護等については、準職員やボランティアにも職員同様に適用することを伝えています。</p> <p>⑤ 京都市地域子育て支援ステーション事業の基幹ステーションとして、地域の子育てに関わる関係機関や団体の中核として、子どもに関わる情報交換や会議、研修、子育て家庭に向けた事業を実施しています。</p>		

### Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

#### 1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）		
1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○
2. 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している		○
3. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対して組織的に解決に取り組んでいる		○
2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		
1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○
2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○
3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		
1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる		○
2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる		○

#### 【講評】

苦情解決制度や利用者アンケートなどの方法でニーズや要望を把握し、サービス向上に繋げています

- ① 「苦情解決規則」を整備しています。これに基づいて第三者委員会を設置するとともに、児童館には苦情申出窓口を設置し、利用者の意見の受け止めに努めています。苦情解決制度の案内は館内に掲示して利用者への周知を図っています。日常的に職員が意見や要望を聞いたときは、施設長に報告して速やかな解決に努め、必要に応じてと法人と共有して対応を図ります。
- ② 毎年「利用者共通アンケート」を実施して、利用者の意向を児童館の事業計画や運営改善に活かしています。アンケートは法人本部で集約し、質問内容は定期的に刷新したり、表現の変更を行ったりしています。また、アンケート結果を児童館に掲示したり、児童館だよりに掲載したりして利用者や地域住民に公表し、透明性の確保とサービス内容の向上に努めています。
- ③ 放課後児童クラブでは、保護者懇談会や個人面談を実施して個別的な要望や意向を把握しています。また、日常の会話や連絡帳を通して児童館と家庭の共通認識が図られるように努めています。子どもの意見の尊重や子どもの主体的な活動を促す取組みとして、児童館ごとに子ども会議等を実施したり、意見箱を設置したりしています。子どもが意見を出し合って、活動の内容を決めたり、購入する物を決めたりしています。
- ④ 他団体が委託を受けている「中三学習会」や地域の実行委員会が開設している「子ども食堂」に施設提供や職員派遣を行い、地域への公益的役割を果たすことができています。

#### IV. 計画の策定と着実な実行

<b>1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる</b>		
1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
1. 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている	<input type="radio"/>	
2. 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている	<input type="radio"/>	
3. 単年度の計画は、担当者・スケジュールの設定などを行い、計画的に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
1. 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている	<input type="radio"/>	
2. 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しについて職員が理解している	<input type="radio"/>	
3. 事業計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している	<input type="radio"/>	
4. 事業計画は、利用者に周知され、理解を促している	<input type="radio"/>	
3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
1. 計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している	<input type="radio"/>	
2. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/>	
<b>2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる</b>		
1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1. リスクマネジメント体制を構築し、事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例の収集と要因分析と対応策の検討・実施が行われている	<input type="radio"/>	
2. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/>	
3. 子どもに施設・遊具の適切な利用方法を伝え、安全に遊べるようにしている	<input type="radio"/>	
4. 子どものケガや病気の応急処置の方法について、研修や訓練に参加している	<input type="radio"/>	
<b>【講評】</b>		
社協基本構想を基礎にマニュアルや事業計画が策定され、計画的な運営が行われています		
<p>① 「京都市の社協基本構想」で今後5年間の児童館の中期計画を示しており、自治体の方針や社会状況に照らして時宜に応じた変更などを検討するようになっていきます。各児童館の単年度の事業計画もこの中期計画を基準にして策定しています。各児童館では、年度末に児童館事業、放課後児童クラブ事業別に年間活動報告を作成して課題を明確にするとともに、次年度の計画策定時に生かしています。</p> <p>② 所管各館で運用している日誌システムは、共有データとして全職員が閲覧できるようになっており、事業計画の実施状況を把握、共有できる仕組みです。また、事業評価や見直しは事業計画の策定とセットで全職員が関わって行います。職員が意見を出し合い、共通の認識の上で、内容の充実や新しい取組みの計画が行われます。</p> <p>③ 法人独自に「事故防止マニュアル」「緊急時の対応に関するマニュアル」「感染症予防対策のためのマニュアル」等、各種危機管理のマニュアルを整備しています。また、定期的な避難・消火訓練や「ヒヤリハット」の報告等、具体的な利用者の安全対策を講じています。併せて、各館の立地条件にあった「防災マニュアル」を作成するなど、安全な児童館運営のための取組みが計画的に行われています。</p> <p>④ 所管各館で利用児童の特性に応じて、遊具の使用法や遊ぶ際の決まりなどを工夫しながら示して、安全に遊ぶことができる環境づくりに努めています。同時に、職員は子どもの主体性を損なうことがないように、子どものやりたいことを吸い上げ、できるだけ実現できるようにすることを念頭に、子どもの支援を行っています。</p>		



## V. 職員と組織の能力向上

<b>1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる</b>		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（期待する職員像、職員育成・評価の考え方）を明示している		○
2. 採用に対する明確な基準を設けている		○
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		○
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している		○
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている		○
<b>2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる</b>		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している		○
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		○
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている		○
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる		○
<b>【講評】</b> 採用・評価・研修受講の仕組みを整え、人材確保と育成を進めています		
① 職員採用は、透明性確保のために公募による採用試験を行っています。試験は筆記、小論文、実地試験などを行っており、基準が明確な評定表に基づいて可否判断がされる仕組みを確立しています。 ② 各館で定期的に館長による職員面談を行い、職員一人ひとりから職務への希望、課題、資質向上への意向などを聞き取り、人員配置や人材育成計画等の参考としています。 ③ 法人独自の人事考課制度とOJTの導入により、各館職員の資質・専門性の評価の明確化と効果性の向上を図っています。法人では考課者の資質が重要であることを館長に伝え、館長はその責任を果たすべく、職員ヒアリングに臨んでいます。また、この人事考課は児童館長への昇格に考慮されます。 ④ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ⑤ 各館では職員一人ひとりの研修受講状況を管理するとともに、人材育成の課題や目標を立てています。これに加えて、職員自身の意向も加味し各館の資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。また、新たな採用職員、1年目の職員や初異動の職員は、実務の中で学びを得てもらうため、OJT制度を導入してサポートしています。		

## V. 職員と組織の能力向上

<b>1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる</b>		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（期待する職員像、職員育成・評価の考え方）を明示している		○
2. 採用に対する明確な基準を設けている		○
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		○
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している		○
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている		○
<b>2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる</b>		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している		○
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		○
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている		○
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる		○
<b>【講評】</b> 採用・評価・研修受講の仕組みを整え、人材確保と育成を進めています		
① 職員採用は、透明性確保のために公募による採用試験を行っています。試験は筆記、小論文、実地試験などを行っており、基準が明確な評定表に基づいて可否判断がされる仕組みを確立しています。 ② 各館で定期的に館長による職員面談を行い、職員一人ひとりから職務への希望、課題、資質向上への意向などを聞き取り、人員配置や人材育成計画等の参考としています。 ③ 法人独自の人事考課制度とOJTの導入により、各館職員の資質・専門性の評価の明確化と効果性の向上を図っています。法人では考課者の資質が重要であることを館長に伝え、館長はその責任を果たすべく、職員ヒアリングに臨んでいます。また、この人事考課は児童館長への昇格に考慮されます。 ④ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ⑤ 各館では職員一人ひとりの研修受講状況を管理するとともに、人材育成の課題や目標を立てています。これに加えて、職員自身の意向も加味し各館の資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。また、新たな採用職員、1年目の職員や初異動の職員は、実務の中で学びを得てもらうため、OJT制度を導入してサポートしています。		

## VI. サービス提供のプロセス

### 1 サービス情報の提供

#### 1 利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している

1. 利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○
2. 利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○
3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○
4. 事業所の利用促進につながるように創意ある広報活動がおこなわれている	○

#### 【講評】

掲示版や SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などを活用し、情報提供の工夫に努めています。

- ① 児童館前の道路に面した掲示版を活用し、乳幼児向けと小学生向けに分けて活動の周知をしています。また、臨時休館中には「おうちでも児童館」として工作キットを準備し、自由に持ち帰れるようにしたり、クイズを掲示したりするなど利用者への継続したサービス提供の工夫をしています。
- ② 児童館便りやホームページだけではなく、SNS を活用した児童館の周知方法にも試行的に取り組んでいます。定期的に SNS に投稿することで、まだ児童館を知らない地域の方や保護者へ児童館をわかりやすく伝えています。SNS は試行的に始めていますが、周囲の評判もよく、近隣児童館も取り組みたいとの話があります。今後も継続した情報提供のツールとして活用していく予定です。
- ③ 児童館便りは対象に合わせて作成しています。小学生向けは近隣小学校 2 校全校配布をし、周知を図っています。乳幼児対象のお便りは、山科子どもはぐくみ室においていただく他、はぐくみ室の便りにも乳幼児クラブの情報を掲載いただく事で、新しい利用者につながっています。その他、山科区社会福祉協議会や隣接する高齢者施設、幼稚園や保育所へも便りの配付をしています。また地域の地下通路の掲示版や自治連合会の掲示板、自治会の回覧板での地域周知も図っています。

### 2 サービスの実施

#### 1 遊びの環境整備を行っている

1. 遊ぶ際を守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている	○
2. 乳幼児から中高生までの子どもすべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	○
3. 子どもが自ら遊びを作り出したり、遊びを選択したりできるようにしている	○
4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	○

#### 【講評】

乳幼児から中高生世代まで、気軽に利用できるような環境設定を行っています。

- ① 児童館利用の基本的な決まりについては、毎月の児童館便りに掲載しています。初めての来館者には利用案内を使って説明をしていますが、館内にもわかりやすく掲示をしています。遊ぶ際のルールなどは、子どもたち自身が状況に応じて考えたり、限られた場所の使い方も子ども同士で決めるなど、職員がコーディネートをしながらか子どもの意見を尊重しています。
- ② 午前中は乳幼児親子が中心ですが、継続して午後まで利用される親子も多く、小学生との日常的な交流が見られます。乳幼児親子から参加できる行事もあり、行事を通しての交流や関わりも見られます。
- ③ 日常的な自由来館の小学生や中高生世代の利用は多くありませんが、館内遊具や図書の分類など、どの年齢の子どもたちも好きな遊びができるよう準備をしています。中高生世代が利用できる時間を設定し、卓球やマットなど年齢に合わせた環境設定をしています。また、館庭も活用することで子どもの外遊びの環境もあり、状況に応じて職員が見守りながら活用しています。

#### 2 子どもの発達過程に応じた支援を行っている

1. 職員が、子どもの発達の一般的な特徴や発達過程について、研修などで学んでいる	○
2. 子ども一人ひとりの発達特性を把握し、発達の個人差を踏まえて支援を行っている	○
3. 子どもへの対応について、個々の事例に関する検討が職員間で行われている	○



	<p>【講評】</p> <p>積極的な研修受講や、日々の打合せの中で共通認識を図っています。</p> <p>① 京都市児童館学童連盟主催の研修や行政研修などを計画的に受講しています。また、対応に悩む場合は京都市学童連盟の巡回訪問を依頼し、直接対応を学ぶ機会を作り、職員の知識向上に努めています。</p> <p>② 放課後児童クラブ児童は個別記録を作成し、一人ひとりに合わせた支援を心がけています。自由来館児童については、日々の子どもの様子や対応を日誌に記録することで、職員間の情報共有をするとともに統一した支援につなげています。</p> <p>③ 対応に苦慮する子どもなどの状況などは、日常的に話し合い支援していますが、その後の経過や課題についても丁寧に話し合っています。また長期休暇後には、時間をかけて振り返りを行い、子どもの成長に伴い継続した支援に取り組んでいます。</p>														
3	<p>乳幼児と保護者への対応を行っている</p> <table> <tr> <td>1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる</td><td>○</td></tr> <tr> <td>7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している</td><td>—</td></tr> </table> <p>【講評】</p> <p>保護者のニーズに合わせた様々な活動を取り入れ、保護者同士の交流促進を図っています。</p> <p>① 年齢別に分けた登録制のクラブと自由に遊べる曜日を設定し、保護者や子どものニーズに合わせた活動を行っています。0歳から1歳の親子が対象の登録制のクラス「ちびクマちゃん」は、いつでも登録することができるため、子どもの成長や様子に合わせて気軽に参加することができます。またプレママやプレパパの参加も呼び掛けることで、実際の親子の様子や会話から、出産後の安心感や児童館への利用にもつながっています。自由遊び（おもちゃのチャチャチャ）の曜日では大型遊具などを準備し、身体を動かして遊びながら、保護者同士の交流の場にもなっています。</p> <p>② 子どものみならず、保護者自身がリラックスできる活動も取り入れています。講師を招いてのヨガ教室は、職員が子どもを託児することで、子どもから離れた自分の時間としてとても人気です。他にも親子でリトミックやベビーマッサージの講師を招いての活動があり、保護者のニーズに合わせた人気の活動になっています。</p> <p>③ 日常的な来館の際も積極的に声をかけて一緒に遊ぶなど、会話を心がけながら保護者同士の交流が図れるよう職員がサポートしています。初めて来館する保護者には、丁寧に対応しながら他の保護者へ繋ぐなど、安心して過ごせるような配慮をしています。保護者主体の活動には至っていませんが、保護者の積極的な児童館利用がある中で、今後の立ち上げに期待します。</p> <p>④ 保護者との積極的な関係づくりをしながら、子育ての悩みや発達の心配事などがある場合には、保健師や関係機関を紹介するなどしています。保護者向けの講演会も実施し、保護者の育児不安の解消にもつなげています。児童館からも保健所の検診に出張することで、児童館の周知にもつなげています。</p> <p>⑤ 中高生世代とのふれあい体験は、計画していましたが今年度実施はできませんでした。今後も計画に乗せ実施していく方向です。</p>	1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している	○	2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している	○	3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している	○	4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている	○	5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している	○	6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる	○	7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している	—
1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している	○														
2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している	○														
3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している	○														
4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている	○														
5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している	○														
6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる	○														
7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している	—														
4	<p>小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）</p> <table> <tr> <td>1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている</td><td>○</td></tr> </table>	1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○	2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている	○	3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている	○	4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○						
1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○														
2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている	○														
3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている	○														
4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○														

	<p><b>【講評】</b> 職員全体で、子どもたちの意思を尊重した働きかけをしています。</p> <p>① 子どもたちのやりたいことができるよう、子どもの声を聞く事を大事にしています。子どもの状況に応じて個別に遊び相手になりながら、一緒に集団遊びをすることで新しい仲間や遊びにつなげています。</p> <p>② 館内の限られた場所をそれぞれのやりたいことができるよう、その都度子どもと相談し、子ども同士で話し合いながら決めています。放課後児童クラブ登録児童が多いため、自由来館の子どもたちが遊びにくくならないよう、丁寧に声をかけるなど職員全体で配慮しています。</p> <p>③ 子ども声を尊重したクラブ活動運営をしています。エコクラブでは瓢箪やゴーヤ栽培からグリーンカーテンなど季節に合わせた栽培活動の他、エコキャップの回収をしています。他にも将棋、きり絵、ダンスクラブがありますが、成果や完成度ではなく、仲間を認め合い協力すること等、過程に重点を置いています。また、けん玉やコマ、縄跳びなどの検定も行っていますが、結果ではなく、子どもたちのチャレンジする気持ちを大切にしています。</p> <p>④ 行事設定が土曜日に集中してしまうため、参加しない子どもたちの居場所や遊ぶスペースの確保を課題として検討しています。</p>										
5	<p>中学生・高校生世代への対応を行っている</p> <table border="1" data-bbox="229 772 1497 936"> <tr> <td>1. 中・高校生世代も利用できるようになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある</td><td>—</td></tr> <tr> <td>4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている</td><td>○</td></tr> </table> <p><b>【講評】</b> 中高生世代専用の時間や環境設定を行い、利用促進に努めています。</p> <p>① 日常的な来館者は少ないですが、来館時には積極的に声をかけています。「何しよう会」として子どもたちの意見を聞く会を設け、月1回中高生企画の時間を作っています。しかし中学校へ児童館便りの配付をしていないことから、今後周知の検討をしています。また青少年活動センターが隣接しているため、中高生世代の多くがこちらを利用することが多いため、児童館として体育館を利用したイベントやチラシ、ポスターの掲示などの連携もし、周知を図っています。</p> <p>② 17時以降は主に中高生世代の時間として周知しており、遊戯室にマットや卓球台などの準備をしています。他にもカードゲームやボードゲーム、飲食もできる時間として子ども同士の交流やのんびりする時間でしたが、現在は感染対策から、飲食を中止しています。</p> <p>③ 児童館の継続した利用から中高生世代になってもボランティアで活動してくれたり、大人になり児童館の職員になった子どももいるなど、児童館の継続した活動が活かされています。</p>	1. 中・高校生世代も利用できるようになっている	○	2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある	○	3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある	—	4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている	○		
1. 中・高校生世代も利用できるようになっている	○										
2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある	○										
3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある	—										
4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている	○										
6	<p>子どもの権利を尊重した支援を行っている</p> <table border="1" data-bbox="229 1451 1497 1691"> <tr> <td>1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている</td><td>○</td></tr> </table> <p><b>【講評】</b> 子ども一人ひとりを大切にした支援を心がけています。</p> <p>① 子どもの権利擁護や職場倫理については、京都市児童館活動指針や法人独自のマニュアルが整備されており、職員全体で確認しています。また日頃から子どもとの関係づくりを心がけており、子どもの様子や困りごとなどに対応できるようにしています。</p> <p>② 日常的に子どもの意見を聞くことを心がけ、子どもの「やりたい」を尊重しています。また言葉でうまく伝えられない子どもの様子に配慮し、職員が丁寧にサポートしています。相手の気持ちを考えられる子ども「やめて」が言える子、そしてやめることができる子になるよう職員全体で支援しています。また放課後児童クラブでは1年生から6年生までの集団のため、特に異年齢の関係性に配慮しながら支援しています。児童館まつり「ぐるっと山階」では、実行委員会を通じて子どもたちが中心に進めました。</p> <p>③ 子どもの権利に関する条約を職員が理解し、子どもたちへ伝えていくことを目指し、今後学ぶ機会を作</p>	1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている	○	2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている	○	3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている	○	4. 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している	○	5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている	○
1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている	○										
2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている	○										
3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている	○										
4. 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している	○										
5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている	○										

	っていくことを考えています。	
7	配慮を要する子ども・家庭への支援を行っている	
	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○
	2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している	○
	3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている	○
	4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取ることにしている	○
	<b>【講評】</b> 学校や関係機関と連携し、子どもや家庭の支援を行っています。	
	① 学校や関係機関と連携しながら、配慮を必要とする家庭や子どもへの統一した支援へつなげています。他機関との情報交換の際は、個人情報保護など守秘義務の遵守を徹底しています。保護者が迎えに来た際の会話を心がけ、気軽に話ができる関係づくりに努めています。また定期的な個人懇談を通じた記録を基にして継続した支援を図っています。	
	② 日常的な活動も、分け隔てなく関われるよう職員や介助者がサポートしています。また、子ども同士の意思疎通が図れるよう職員が橋渡しとなり、コミュニケーションを図っています。	
	③ 個人記録や個人懇談記録などは、共有回覧をした上で、月1回の職員会議において、ケース検討会議を行っています。主に常勤のみですが、必要事項は守秘義務の徹底をした上で非常勤職員とも適宜情報共有を図っています。	
	8	地域の子どもの育成環境づくりを行っている
1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している		○
2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている		○
3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある		○
4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている		○
5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている		○
6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている		○
7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある		○
8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している		○
<b>【講評】</b> 地域の基幹ステーションとして各関係団体との連携に努めています。		
① 児童館独自の運営協力会はありませんが、山階学区子育てネットワークに参加しています。年3回の会議には、地域の学校、幼稚園保育所、自治会、社協、青少年センターなどが参加し、情報交換を通して地域の子どもの健全育成に取り組んでいます。また地域子育てステーション事業としては児童館が中心になって、関係団体との連携を図っています。		
② 民生児童委員主催の乳幼児親子を対象とした子育てサロンは長期に渡って継続した活動として活発です。また児童館まつりでは、地域住民の協力もあり児童館活動に協力的です。子どもの安全安心のため、定期的に消防署や警察と連携した避難訓練や交通安全教室を行ったり、自治連合会長が、子どもの下校の見守りをするなど、地域全体で子どもを見守る環境があります。		
③ 法人が持つ学区内の施設を利用した連携事業や、隣接する青少年センターを活用して中高生世代の行事や大型行事を行うなど、児童館内だけでなく他施設との連携した活動にも取り組んでいます。地域のまつり「ぐるっとふれ愛まちフェスタin山科」では、地域をめぐるイベントとして児童館も共催することで、子どもたちが地域を知る機会となっています。		
9	子どもを含めたボランティアの育成と活動支援を行っている	
	1. 子どもの活動にお手伝いやボランティア活動を取り入れ、健全育成活動の一環として実施している	○
	2. 乳幼児の保護者の主体的な活動を支援しつつ、ボランティアとして育成している	—



3. 地域住民を受け入れ、ボランティアとして育成している	○
<b>【講評】</b> 子どもの「やりたい」の声を大事にしながら、活動へつなげています。	
① 児童館のクラブ活動「エコクラブ」は、環境に関心を向けた栽培活動からエコに関心を持った子どもの意見から、エコキャップ回収活動につながりました。子どもの「やりたい」気持ちを大切にするため、誰でも参加ができるようにしています。回収したエコキャップを選別する作業も子どもたち自らが率先して行っています。また日常のお手伝いなども、子どもの「やりたい」の声を拾う機会として大事にしています。	
② 児童館の開設当初から継続的に児童館活動に関わっている地域住民の方や、民生児童委員の日常的な関わりの他、子どもの見守りをしている自治会の方など、ボランティアとして多くの地域住民が関わっています。乳幼児保護者の主体的な活動はまだ立ち上がっていませんが、児童館の活動には積極的に参加しているため今後の育成を期待します。	
③ ボランティア受け入れの際は、事前に京都市児童館学童連盟のボランティアマニュアルに沿って、説明を行っています。日常のボランティア募集については、山科区福祉協議会のボランティアセンターへの登録や近隣の大学へ周知をしています。	

3 放課後児童クラブの運営【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】	
1 放課後児童クラブを児童館の持つ機能を生かして運営している	
1. 放課後児童クラブは市町村の基準条例（最低基準）に基づいて行われている	○
2. 放課後児童クラブに在籍する子どもと児童館に来館する子どもとが直接交流できるよう活動を工夫している	○
3. 放課後児童クラブに在籍する子どもと地域の子どもの住民とが直接交流できる機会を設けている	○
2 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	
1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○
2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○
3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○
4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	○
3 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	
1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○
2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○
3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○
<b>【講評】</b> 入会前は説明会を開催し、入会後は丁寧に寄り添い支援しています。	
① 放課後児童クラブの運営は、京都市の条例や京都市児童館学童連盟の基準を基にしています。希望する児童はすべて受け入れているため、館内はクラブ児童が多い状況です。自由来館児童が利用しにくくならないように部屋の利用や時間に配慮しながら、一緒に過ごせるようにしています。	
② 入会説明会及び登録説明会を開催し、放課後児童クラブの生活を丁寧に伝えることで、保護者や子どもの安心につなげています。子どもの安全安心のため、出欠席の連絡は必ず保護者からいただくことや、学校への下校時間の変更などは必ず連絡をいただくようにしています。	
③ 子どもの様子はなるべくお迎え時に直接伝えることを心がけています。お迎えではない保護者には連絡帳を活用し様子を伝えていますが、内容によっては電話連絡で直接伝えるなどを心がけています。	
④ 入会時後の子どもには丁寧に寄り添うことで子どもの安心感につなげています。特に、途中入会児童について	

ては子ども同士の関係性にも配慮した支援を行っています。放課後児童クラブは、6年生まで入会が可能です。が、継続を望む家庭の子どもに関しては、保護者の意向と子どもの気持ちを確認、相談しています。その際は子どもの自立に向けて保護者の気持ちにも寄り添うようにしています。

#### 4 特に配慮を要する子ども・家庭の個別状況に応じた対応と記録

##### 1 特に配慮を要する子ども・家庭の情報収集、分析を行い、課題を理解した上で対応を図っている

1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を把握し記録している	<input type="radio"/>
2. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関と情報を共有し連携して対応している	<input type="radio"/>
3. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/>
4. 配慮を要する子ども・家庭の記録は、担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/>

##### 【講評】

関係機関と情報共有をしながら、統一した支援につなげています。

- ① 特に配慮を要する児童については、個別面談を行い、保護者の要望や思いを聞き取りながら「児童の状況報告書」に記入することで、職員全体の共有の他、法人にも共有をしています。日常的な子どもの様子は日誌に記入して共通認識を図ることで、統一した支援につなげています。
- ② 要配慮児童のサポートをしている介助者を含めたミーティングを行っています。介助者からの意見や情報交換の他、勉強会を行いお互いに学びを深めるなど、子どもに合わせた支援方法に努めています。また京都市児童館学童連盟の研修や同連盟の統合育成巡回指導を受け、支援方法や関わり方を職員全体で学ぶ機会を作っています。
- ③ 関係する学校、保育所、支援センター等と定期的にケース会議を行っています。お互いの情報共有を図りながら、継続して統一した支援につなげています。

#### 5 プライバシーの保護等個人の尊厳、権利の尊重

##### 1 子どものプライバシー保護を徹底している

1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/>
2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/>

##### 2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/>
2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/>
3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	<input type="radio"/>

##### 【講評】

個人情報の保護やプライバシーに配慮しています。

- ① SNSを含む、児童館の広報活動に掲載する写真などの個人情報は、事前に保護者の同意書を取り確認するほか、その都度確認を取るなど取り扱いは慎重に行っています。また外部への必要書類提出の際も保護者の同意を得るようにしています。
- ② 子ども自身の思いや意思が伝えやすい関係や環境づくりを心がけています。個別対応が必要な場合は事務室で行ったり、伝え方なども子ども一人ひとりの特性に配慮した対応に努めています。
- ③ 法人独自の倫理マニュアルが作成されており、子どもへの対応など、職員一人ひとりが意識をするようにしています。日頃から子どもだけではなく保護者や利用者、地域の方々への適切な行動や言動に心がけ、職員同士で気になることは伝え合い早期に話し合うようにしています。



## 6 事業所業務の標準化

1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	
	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供している児童館活動の標準的な実施方法を明確にして活動を提供している	○
	2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
	3. 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している	○
2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	
	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○
	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○
3	さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	
	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○
	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○
	3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○
	4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○

### 【講評】

事業計画を作成し、定期的な振り返りをもとにした柔軟な運営を心がけています。

- ① 京都市児童館学童連盟の活動指針や京都市の条例に基づいた事業運営をしています。事業を行う際は職員全体で確認することで、標準化を図りながら状況に応じて柔軟に対応しています。年間事業計画を作成し、それに沿った事業運営を行っています。過去の実績にとらわれないよう定期的な振り返りの他、年度末に年間の振り返りを行うことで、次年度の計画に反映し、より良い運営につなげています。
- ② 日々の打ち合わせや職員会議録などは、職員全員が確認することで一定の共通認識を図っています。また京都市児童館学童連盟や行政の研修を積極的に受講することで、新たな知識の習得に努め、受講した職員は館内で報告をすることで受講していない職員に伝える機会を作っています。
- ③ 館長と職員のヒアリングを年に4回行い、各職員の困りごとやわからないことへの助言をしています。日常的な職員のサポートはOJTシートを作成し、新規採用の職員や異動職員へ丁寧なサポートを行い職員の安心につなげています。

## VII. 情報の保護・共有

### 1 情報の保護・共有に取り組んでいる

1	事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○
	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している	○
2	個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	
	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○
	2. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	○

【講評】

情報の保管・管理は端末にアクセス権を設定するなど徹底して行っています

- ① 個人情報が表示されている書類は、鍵のかかる場所に保管し、必要なときは適時、職員が確認をすることになっています。また、日誌類の記録はデータ化が行われ、子どもの情報をより系統的に記録し、職員も情報の検索が容易になっています。データは厳重に保管管理が図られています。
- ② 個人情報の取り扱いについては、保護者に説明を行い、理解を深めています。また同意書を求めるなど、書面でも確認した上で保管して、その取り扱いを徹底しています。
- ③ 実習生やボランティアには、活動に入る前に個人情報の取扱いや秘密保持について職員から説明して個人情報保護の徹底と子どもの人権の尊重を図るようにしています。

## 総評

### ■特に良い点

ポイント1	SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を活用し、周知の工夫に取り組んでいます。
	<p>児童館をより多くの人々に周知できるよう、SNSを取り入れ、定期的に発信しています。児童館の利用ができなかった時期も、SNSを通じて児童館の情報を周知することができ、児童館利用者のみならず、まだ児童館を知らない地域の方や乳幼児保護者の手元に届くことで、新たな利用者へつながっています。また、児童館便りの小学校全校配付、地域の自治連合会の掲示板や回覧板での周知の他、地域の生活地下通路の掲示板にも掲示して頂くなど、様々な周知の取り組みを工夫しています。</p> <p>児童館前の道路に面した掲示板には乳幼児向けと小学生向けのお知らせを分けて掲示しています。児童館が休館中も掲示板を活用して、クイズや持ち帰り工作キットなどを置くなど、利用者へのサービス提供の継続に努めたことで利用者からの感謝の声もあり、広報活動の工夫の成果が見られます。</p>
ポイント2	保護者ニーズに合わせた乳幼児活動を行っています。
	<p>児童館機能の一つである、乳幼児親子対象の子育て支援の取り組みを積極的に行っています。定員制の2歳児クラスでは、季節行事を中心としたプログラムを通じて、継続した保護者や子ども同士のつながりが図られています。申し込みのいない0歳児～1歳児のクラスでは自由遊びができる日とプログラム提供をする日を作り、それぞれ子どもの体調や様子で参加できるようにするなど、年齢や保護者のニーズに合わせて利用できるようにしています。その他の曜日にも大型遊具を出し自由に遊べるなど、様々なニーズに応えられるよう工夫をしています。保護者の要望からリトミックやヨガの講師を招くことで保護者自身のリフレッシュの時間にもなっており、乳児保護者は特に育児を楽しむことにつながるベビーマッサージが好評です。活動の中で保健師を招いたり、子育てに関する講演会を開くなど保護者の育児支援にも取り組んでいます。</p>
ポイント3	子どもの気持ちを大事にした支援を行っています。
	<p>子どもの権利擁護に関するマニュアルが法人独自に整備されています。職場倫理も含めて子どもへの対応は職員全体で意識しており、子ども自身の思いや意思が言える環境づくりのためにも、子どもとの日常的な関係づくりを大事にしています。子どもの声を聞く事を心がけ「やりたい」を尊重しながら、言葉で上手く伝えられない子どもには職員が寄り添いながらサポートし、自信につなげています。また「やめて」「いや」などの気持ちも言葉で伝えることができよう、そして相手の気持ちがわかる子ども同士の関係づくりに配慮をしています。クラブ活動や行事活動では、実行委員会などを通して子ども同士の意見交換を大事にしながら職員が寄り添い支援しています。放課後児童クラブでは1年生から6年生までの異年齢集団であることを踏まえ、子ども同士の関係性に配慮をしながら一人ひとりの気持ちを大事にしています。</p>

## ■改善が望まれる点

ポイント1	自由来館者の日常活動の充実、利用促進への工夫が望まれます。
	放課後児童クラブの在籍児童が多く、小学生の自由来館者が少ない印象です。児童館便りにはクラブ活動が主に記載されていますが、日常的な遊びや活動内容が少ないようです。児童館を利用したことのない子どもに向けた遊びの紹介や、自由に過ごせる場所であることを記載するなど、紙面づくりの工夫をすることで、新たな利用者促進を図ることを期待します。また、SNS を活用した広報も日常遊びの様子などが掲載されることで、より一層児童館の理解につながると考えられます。クラブ活動や行事設定の曜日が偏ってしまうため、参加していない子どもの居場所や遊ぶ場所の確保が課題となっています。限られた職員人数ですが通りに面した館庭を活用することで、地域の方々や新たな来館者への周知にもなりそうです。館外も視野に入れたり、職員の役割分担をするなど工夫の取り組みが望まれます。
ポイント2	中高生世代の利用につながる活動や周知の工夫に期待します。
	児童館は0歳から18歳まで利用できる施設です。現在来館している主な中学生は、小学生からの継続した子どもたちです。新しい来館者へつなげるためにも、児童館の利用の仕方や活動内容など、小学生とは違った視点の中高生向けのチラシなどの広報が必要です。中高生世代がメインで利用できる17時以降の遊べる内容や、月1回の中高生企画の時間「何しよう会」を周知することで中高生世代の自己実現の場につなげることが期待されます。また近隣中学校などへ定期的に配付するなど、関係機関への周知をすることでより多くの中高生世代へ周知が期待されます。隣接する青少年活動センターは中高生世代中心の施設ですが、活動内容の差別化を図ることで、お互いの良い協力関係につながることに期待します。